

雜報

●敘任及辭令

鹿島乘組被免伊吹乘組被仰付

海軍中軍醫

長谷川 靜一

(十二月二十三日)

北海道廳警察醫

伊藤 顯太郎

年俸七百五十圓下賜

任陸軍一等軍醫

陸軍二等軍醫從七位

平野 林

任陸軍三等軍醫

太田 幸衛

任陸軍三等軍醫

吉永 義雄

任陸軍三等軍醫

小竹 豐

任陸軍三等軍醫

田村 權五郎

任陸軍三等軍醫

高橋 肇

陸軍高等官四等

岡山醫學專門學校教授從六位

田村 於兔

(十二月二十五日)

野砲兵第二十三聯隊附陸軍二等軍醫

藏本 貢

免本職補岡山衛戍病院附

陸軍三等軍醫

吉永 義雄

補野砲兵第二十三聯隊附

步兵第十一聯隊附陸軍三等軍醫

大屋 音市

免本職朝鮮軍司令部附被仰付

補步兵第十一聯隊附

陸軍三等軍醫

高橋 肇

補步兵第八聯隊附

陸軍三等軍醫

田村 權五郎

步兵第五聯隊附陸軍三等軍醫

滋野 井至孝

免本職補輜重兵第九大隊附

補步兵第三十七聯隊附

陸軍三等軍醫

小竹 豐

補步兵第二十一聯隊附

陸軍三等軍醫

太田 幸衛

野砲兵第二十四聯隊附陸軍二等軍醫

西田 瀨治

免本職補步兵第七十四聯隊附

步兵第四十三聯隊附陸軍三等軍醫

金光 三郎

免本職補步兵第七十四聯隊附

賜一等給

陸軍二等軍醫

山田 昇

敘勳四等授瑞寶章

從六位勳五等

片山 雄

(十二月二十七日)

陸軍三等軍醫正

簡野 松太郎

佛領印度支那へ出張被仰付

(一月十一日)

敘正七位

從七位

杉山 龜之助

(一月二十日)

●學生退校 大正七年第二回陸軍軍醫學校學生中左記の本會員諸君は本月十五日退校せり

普通學生

陸軍二等軍醫 野上 尙志

陸軍二等軍醫 中田 正景

陸軍二等軍醫 安東 寛

陸軍二等軍醫 岸本 宗治郎

陸軍二等軍醫 伊賀 久家

陸軍二等軍醫 高原 武一

専攻學生

陸軍二等軍醫 藏本 貢

右の内岸本宗治郎君は成績優等に付銀時計を下賜せられたり

●人事彙報

○中山二郎君 は豫て岡山縣病院内科に勤務し居られしが昨年末同院を辭しフキッピンに渡航し左記病院に勤務せられたり

O. D. C. Hospital

P. O. Box 158

Davao P. I.

○中村吉太君 は豫て山口縣熊毛郡麻郷村に於て開業し居られしが昨年十一月馬來半島に渡航し同月二十七日左記に於て開業せられたり

No. 23 Jalan Sayang

Muar, Johore,

S. S.

○林昌君 は客年末陸軍を退職し東京神田區駿河臺杏雲堂病院に勤務せられたり

○神谷英典君 は先般陸軍を辭し神戸市下山手通二丁目齋木病院に勤務せられたり

○園田富士彦君 は先般朝鮮總督府醫院を辭し大阪鐵工所醫局主任として就職せられたり

○田丸要樞君 は今般開業を中止し東京市神田區末廣町南洋柘植株式會社に勤務せられたり

○大石松一君 は神戸市神中病院に勤務し居られしが舊臘神戸市縣立病院に轉勤せられたり

○紀一字君 は豫て香川縣綾歌郡坂出町倉敷紡績坂出工場醫局に勤務し居られしが昨年動員の際應召從軍中なりしが去月下旬除隊となり従前通り復職せられたり

○片山雄君 は第十二師團第二野戰病院附としてハバロフスクに於て冬營中の由

○白神盛雄君 は今般陸軍を辭し郷里本縣吉備郡新本村に於て開業せられたり

○木村直慶君 は豫て徳島市古河病院に勤務中なりしが昨年末同院を辭し郷里奈良縣磯城郡織田村に於て開業せられたり

○松林保太郎君 は豫て廣島縣病院小兒科に勤務し居られしが今般辭職山口縣玖珂郡日積村に於て開業せられたり

○平松啓一君 は大正六年岡山醫學專門學校卒業後岡山縣病院産婦人科に於て研究中なりしが本月十五日より姫路市東吳服町に於て開業せられたり

○池山精一君 は今般愛媛縣今治町に移轉せられたり

○白石隆二君 は今般北海道岩見澤町四條通り西五丁目に移居せられたり

○坪郷敏亮君 は豫て神戸市醫師會附屬「ラヂウム」治療所に勤務し居られしが客年十二月一年志願兵として當地師團に入營せられたり

○後藤義貞君 は豫て山梨縣病院に勤務し居られしが今般當市石本院に轉勤せられたり

●關餘作君短信 本年元旦イルクックより當地舟岡博士に寄せられたる短信は左の如し

(前畧)小生事昨年五月ローマニヤ出立七月末此地に到着今尙は滯在中に候露西亞の現狀は御承知の如き次第とて小生が從軍二年有半の生活も水泡となりしこそ憐れに候此地には目下邦軍三百有餘あり先づ平穩に有之候小生も來月頃は一先づ歸朝し諸事準備を整へ西比利亞永住の策を講じ度と存居候此地には日本の醫者五人あり其内三人は自稱ドクトルに候西比利亞には米人の發展甚だ盛に候吾人も之に劣らぬ様奮闘致度候云々